

藤岡主任指導主事は、フォーラムの説明の中で「教育基本法第13条に掲げられた“学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力”は、今後ますます重要となる」と言い、また明星大学の清田先生の3つの「きょうどう」の話をされました。

「共同」は、同じことをすること。「協同」は、力を合わせておこなうこと。そして、「協働」は、違うことをしていても、それぞれのしていることがかみ合うこと。「同じことをする、集まって一緒にやる」ではなくても、同じ目標に向かって役割分担をしていれば、到達点は同じなのです。

例えば、“学校”は新しい知識や学習方法を教え、“家庭”はTVを消して家庭の学習環境を整えて子どもの学習意欲を高め、“地域”は家庭教育の学習の機会を設けたり、放課後子ども教室等で学習会を開いたりする。“行政”は、市町村の広報等によりその取組を住民に知らせて、地域の機運を高め、“子ども”は、自分のこととして勉強する。皆、違うことをしていますが、子どもの学力向上という共通の目標にたどり着きます。

これを学校側からの視点で考え、家庭や地域と連携して展開すると「いわて型コミュニティ・スクール」となり、家庭や地域の視点に立ち、学校を支援する立場で展開すると「教育振興運動」というふうにとらえることができます。このふたつは、表裏一体のものであるといえます。

ところが、先に実施しました「教育振興運動推進状況調査」における全県共通課題の結果をみると不思議なことに気づきます。同じ小学校区でありながら、学校は家庭や地域と連携して全県共通課題に取り組んでいると言っているにも関わらず、教育振興運動の実践組織では全県共通課題に取り組んでいないと回答しているのです。この認識の違いは、どこからくるのでしょうか。

おそらく、年度始めの5者の話し合いが不十分であり、共有が図られていないことに起因するのだと思われます。今、市町村においても盛んに集約集会や集約会議が開かれていますが、5者が共通の意識に立って話し合いをし、学校も家庭も地域も同じ意識で新年度のスタートをさせましょう。

3【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(教ちゃん) 教育振興運動「実践の3年」集約県大会まで、あと3日ね。

(振ちゃん) 県内各地から360人集まるんだって・・・。

(教ちゃん) 今朝の岩手日報にも集約県大会の記事が載ったり、今夜の岩手朝日テレビの県内ニュース(6:17~6:53)でも紹介されたりするから、それを見て来る人もいるかもしれないわね。

(振ちゃん) 400人越えればいいな・・・。たくさんの人に「教育振興運動」の今を知ってほしいよ。

(教ちゃん) 県民みんなが意識を持たないと、県民運動にならないものね。

(振ちゃん) 田野畑村で行われた教育振興運動集約集会の講演でも、「教育振興運動をもっと多くの人に知ってもらう必要がある」と講師の方がお話していたよ。

(教ちゃん) もっと、テレビやラジオなどのメディアに出たり、著名人とタイアップしたりして宣伝していきたいわね。

(振ちゃん) メルマガの読者の皆さん。いいアイデアがありましたら、是非教えてください。皆さんからの投稿をお待ちしています。

4 【みんなの声】 ペっこ言い隊

本町では毎年2月に教育振興運動集約大会を開催しており、例年、PTA関係者の外にも地域の方々にもご案内をし、みんなで共通理解を図ろうと進めておりました。一堂に会し共通理解を図ることが5者の連携につながっていくものと考えておりましたが、教振メルマガ第33号では「5者が一堂に会する必要はないと」掲載されておりました。どう考えたら、よいでしょうか。

(H町Tさん)

⇒ 地域の課題を掘り起こすにしたり、ねらいを共通理解したりするために5者が集まり、話し合うことはとても大切です。また、集約大会のように成果を確認する場合も同様です。メルマガの第33号で述べたのは、活動内容についての部分でした。

5 【編集後記】 あつしのひとりごと

「アーマー！」間寛平さんが、地球1周のアースマラソンから戻ってきました。途中、病気というアクシデントがありましたが、最後まで走りぬき、その姿に感動しました。

「子どもたちの笑顔には国境はない」、「子どもたちから元気をもらって走った」、「(声援をかけてくれた子どもたちに) 大人になった時に、そういう大人がいたと覚えてくれて、頑張ろうと思ってくれればいい」・・・ということをテレビで言っていました。

今、教育振興運動や放課後子ども教室、学校支援ボランティアなどで頑張っている皆さんも同じ思いでいるのだと思いつつ、寛平さんの勇姿を見ていました。

⇒ 第38号は、2月8日(火)配信です。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

★平成21年度配信のバックナンバー(第1~17号)はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index5.html>

★平成22年度配信のバックナンバー(第18~26号)はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index8.html>

★平成21年度「家庭学習」と「読書推進」の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index3.html>

★平成 22 年度「家庭学習」と「読書推進」の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/index6.html>

~~~~~配信元~~~~~

\* 岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

\* 発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気あなたから作りだしてください。

~~~~~